

藝大定期第370回



東京藝術大学

# 藝大フィルハーモニア定期演奏会 Geidai Philharmonia, Tokyo

～未完のシンフォニー～  
*Unvollendete Symphonien*



尾高 尚忠 Hisatada OTAKA

《第一交響曲》作品35  
Symphonie Nr.1 Op.35



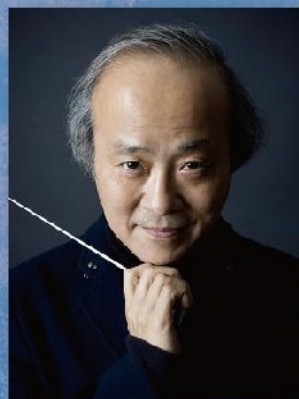
ブルックナー Anton BRUCKNER

《交響曲第9番》二短調  
Symphonie Nr.9 d-Moll  
(2000年コールス校訂版)  
Kritische Neuausgabe von B.G.Cohrs (2000)

指揮  
尾高 忠明

Conductor: Tadaaki OTAKA

管弦楽  
藝大フィルハーモニア  
Geidai Philharmonia, Tokyo



©Martin Richardson

2015年6月13日(土) 15:00開演(14:30開場) 入場料 3,000円(全席自由)

東京藝術大学奏楽堂(大学構内)

※スケジュール・曲目・出演者等は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。  
※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。

[チケット取り扱い] ◆東京芸術大学生協同組合 TEL: 03-3828-5669 (店頭販売のみ)  
◆ヴォートル・チケットセンター TEL: 03-5355-1280 <http://ticket.votre.co.jp>  
◆東京文化会館チケットサービス TEL: 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket> ◆イープラス(e+) <http://eplus.jp>  
◆チケットぴあ TEL: 0570-02-9999 <http://t.pia.jp> 《Pコード: 255-325》(一部携帯電話・PHS・IP電話はご利用いただくことができません)

[お問い合わせ] ◇東京藝術大学演奏芸術センター TEL: 050-5525-2300 ◇東京藝術大学ホームページ <http://www.geidai.ac.jp>

主催: 東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

## 未完のシンフォニー

それが、父、尾高尚忠(1911～51)の最後の日本交響楽団(現NHK交響楽団)との定期演奏会だった。1950年(昭和25年)12月14・15日、日比谷公会堂。父がウィーン留学時代から振りたくてしょうがなかった「ブルックナーの9番」。事務局はその頃、無名に近かったブルックナー(1824～96)の、それも題名付きの「ロマンティック」ではなく、9番を申し出る父にたびたび「No!」と返事をしていたが、最後に了承してくれた。演奏会当日、妻の節子(僕の母)は、舞台袖で聴いていた。ブルックナーが終わった時、聴衆の反応は鈍かった。でも、父は涙を浮かべながら帰ってきて、「ブルックナー小父さん、(天国に行けて)良かったね!」とつぶやいた。この頃、父は激しい頭痛に悩まされ続けていた。父の最初で最後の《第一交響曲》は、このような体調のなかで書かれている。ブルックナーは、《交響曲9番》のあと、4楽章を手がけながら完成することなく死を迎え、今はザンクト・フローリアンの修道院のオルガンの下に眠っている。父は1951年(昭和26年1月)の名古屋公演以降、病状が悪化し、2月16日に亡くなった。《第一交響曲》は2楽章までできあがっている。しかし、その2楽章の最後には「attacca(切れ目なく次へ)」の文字。父も3楽章を、いやもしかしたら4楽章まで構想があったのかも知れない。でも、ブルックナーの3楽章は「死のコラール」を持つが、父の2楽章は「湘南の海を懐かしむ歌」だ。僕は双方共に、作曲家の「白鳥の歌」だと思う。二人の作曲家が、天国で聴いてくれていると信じつつ。

尾高 忠明 (指揮者・東京藝術大学音楽学部特別教授)

### 尾高 忠明 Tadaaki OTAKA

### 指揮 Conductor



©Martin Richardson

桐朋学園大学音楽学部で齊藤秀雄に師事。1970年民音指揮者コンクール第2位。71年、NHK交響楽団を指揮してデビュー。オーストリア政府から奨学金を得て72年からさらにウィーン国立音楽アカデミーでスワロフスキーに指揮法を学んだ。東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者(現桂冠指揮者)、札幌交響楽団正指揮者・常任指揮者(現音楽監督)、読売日本交響楽団常任指揮者(現名誉客演指揮者)、紀尾井シフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー・首席指揮者(現桂冠名誉指揮者)、メルボルン交響楽団首席客演指揮者などを歴任。87年にBBCウェールズ交響楽団(現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団)首席指揮者に就任。88年ロンドンの夏の音楽祭「プロムス」にデビュー以来、イギリスを中心にヨーロッパにも活動の場を広げ、96年から同団桂冠指揮者を務める。2010年NHK交響楽団正指揮者。10～14年新国立劇場オペラ部門芸術監督。1991年度サントリー音楽賞、93年ウェールズ音楽演劇大学名誉博士号、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBE、99年英国エルガー協会より日本人初の「エルガー・メダル」、2012年NHK交響楽団より有馬賞、14年北海道文化賞受賞。父の《第一交響曲》は、11年、尾高尚忠生誕100年没後60年を記念した仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会で採り上げている。東京藝術大学音楽学部特別教授・相愛大学音楽学部客員教授・京都市立芸術大学音楽学部客員教授。

### 藝大フィルハーモニア (東京藝術大学管弦楽研究部)

### Geidai Philharmonia, Tokyo



藝大フィルハーモニアは東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、年2回の定期演奏会、声楽科との合唱定期、オペラ研究部との共演、新卒業生(各科最優秀者)の紹介演奏のほか、年末恒例の「メサイア演奏会」、「第九公演」などを行っている。教育面では、器楽科・声楽科学生との協奏曲などの共演および作曲科学生の作品演奏(モーニング・コンサート)、指揮科学生による演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の拡充に資している。前身である旧東京音楽学校管弦楽団は、わが国初の本格的なオーケストラで、ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》、《交響曲第9番「合唱付き」》、チャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》、ブルックナーの《交響曲第9番》などを本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての活動を果たしてきた。

### 東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

交通のご案内

- JR 上野駅(公園口)・鶯谷駅(南口)、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分
- 京成線上野駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅より徒歩15分
- 台東区循環バス「東西めぐりん」
- ② 上野駅・上野公園から(東京芸術大学経由)⇒ ⑤-1 東京芸術大学下車 [30分間隔]

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。  
※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。



デザイン: 水本 紗恵子 (演奏芸術センター教育研究助手)